



学生コンサル団 ミズキを視察

欧州進出目指す中小に助言

ミズキ（神奈川県綾瀬市、水木太一社長、0467・70・1710）は、首都圏産業活性化協会（TAMA協会）とドイツのシュタインバイス大学、東京農工大学による連携事業に参加した。両校の学生がミズキを訪問して工場見学やヒアリングを行った。同取り組みは「学生コンサルティング事業」との名称で、欧州展開を考えている中小企業を対象に実施。学生が企業の課題を解決するビジネスプランを提案する。（横浜・川口拓洋）

ミズキは今回、神奈川県内企業では初めて学生コンサルティング事業に参加した。同社は米大手通信機器メーカーや国内外のカメラやシャフトを手がけ、タイ、香港、ラオスに現地法人を構える。創業76年で「100年企業」を目指して新たなネジの開発や欧州市場への展開を構想する。

シュタインバイス大学の学生はタイムラー、フォルクスワーゲン、シーメンスなどに所属する社会人学生が大半。日本での研修を通じてMBE

▲ミズキの本社工場を視察するシュタインバイス大と東京農工大の学生（左端は説明する水木社長）

TAMA協会が派遣 日独2大学と連携

（ビジネス経済学修士）やMBA（経営学修士）の取得を目指している。日本の中小にとっては、欧州人の目で欧州進出をシミュレーションする貴重な機会となる。

水木社長は「成長戦略というより存続戦略。技術は10年も経過すれば陳腐化する。技術力だけで生き残ることは難しい」とプログラム参加の理由を語る。TAMA協会人材育成・確保部人材確保・定着支援事業統括の岸本洋子氏は「会社のグローバル化や若手社員意識改善につながった事例もある」と話す。同協会は人材育成・確保支援のほか、産学連携・研究開発、販路拡大海外展開支援の3事業を展開。岸本氏は「他の事業と連携し、中小企業を段階的に支援する仕組み作りにつなげたい」と期待する。